

令和元年度 八尾市衛生問題対策審議会 保健所運営部会 議事録

と き 令和元年 8 月 20 日（火）午後 2 時～ 4 時
と ころ 八尾市保健所 2 階大会議室
出席委員 委員総数 15 名のうち 10 名
傍 聴 者 なし

1. 開会の辞

2. 委員・事務局紹介

3. 部会長挨拶

4. 議事

- (1)保健所の運営について
- (2)保健所におけるデータの見える化について
- (3)健康経営について
- (4)食品衛生について
- (5)自殺対策について

5. 意見交換等（○：委員、●：事務局）

○健康かつ安全・安心の暮らしを求め、食品衛生パトロールをはじめさまざまな活動を行っていく中で、食品や環境衛生、病気の予防などについて、所長をはじめ、担当の方から指導や助言をいただくなど、八尾市の保健所となって、市民は大きな喜びと期待を抱いている。今後も専門職の人材確保・育成で体制を充実させ、保健所業務の「見える化」を推進していったほしい。

○大規模災害発生時の保健医療活動体制について、保健所ではこういったメンバー構成で、どのように対応していくことを想定しているのか。例えば、避難所を巡回するときはどのように動くのか。また、各出張所等に配置されている保健師との連携についてはどう考えているのか。

●大規模災害時の初動体制については、危機管理課が災害対策本部を立ち上げ、保健所が災害医療の確保を目的として保健医療調整本部を立ち上げることとなる。保健医療調整本部は保健所長を本部長とし、市職員や医療・消防・警察等の関係者が参集し、初動時における医療の確保等についての対応を行う。具体的には、市内の医療機関の被災状況を確認し、必要に応じて大阪府等と連携しながら支援の調整等を行っていくこととなる。また、避難所については開設後、保健センターや出張所保健師と連携を図り、分担しながら避難所の状況や被災者の健康状態の把握をするなど、必要な医療を適切に実施していける体制を整備していきたいと考えている。

- 災害発生初動期において、具体的に誰を保健医療調整本部のメンバーに入れるかといった具体的な体制は準備できているか。
- 保健医療調整本部のメンバーには医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生方に参画していただくことを想定している。具体的にどなたに参画いただくかについては現在調整中であるが、早急に協議を進めていきたいと考えている。
- 高齢者の孤独死を防ぐため、定期的に民生委員がひとり暮らし高齢者宅を訪問しているが、それだけでは手薄であるため、自治振興委員会も協力しながら訪問活動を進めていきたいと計画しているところである。ついては、保健所の年報5ページ目「保健所活動の指標」中の項目として、「65歳以上のひとり暮らしの方の人数」を記載することは可能か。
- 来年度以降の年報に記載するかどうか検討する。
- 保健所におけるデータの「見える化」については分かりやすく良いと思うが、市のホームページで閲覧できるのか。また、医療機関向けに情報発信される予定はあるのか。
- データについては現在整理中のため、整い次第、ホームページ等での公開について検討していきたい。また、医療機関とのデータ共有については、保健センターを含めた部内の連携会議等で協議中であり、あらためて関係者にもご相談させていただきたい。
- 自殺者や難病患者の数を保健所で把握し、継続的にケアを行っているのは良いことだと思うが、それを地域でどのように支えていこうと考えているのか。大阪府内の医療機関はレスパイト入院に対応しきれていないが、難病患者は生涯を通じて継続的なケアが必要であり、地域ぐるみでケアしていく仕組みが必要だと考えるがいかか。
- 難病患者については、介護保険を利用されている高齢者はサービスが充実しているが、小児の患者は訪問看護ステーションもなく、専門医も八尾市は少ないため、在宅で往診される医師が少ない状況である。しかし、小児の患者も診ていただける高齢者向け看護ステーションや医療機関が徐々に増えてきているほか、現在、小児の医療ケアについて福祉部門と協議を行っているところであり、今後はサービスを充実させていきたいと考えている。
- 自殺対策については、自殺を図ったご本人またはご家族の同意が得られたケースについては警察から保健所へ連絡が入り、場合によっては入院中のご本人に会いに行くということもある。同意を得られない方やご自身で医療機関へ治療に行かれた方で、その後の支援が必要だと思われる方がいれば、ぜひ保健所へつないでいただきたいと考えている。また、自殺の原因の一つにアルコール依存の問題があるが、その場合についても早期に保健所や専門医療機関へつないでいただくことが大切だと考えている。

- 補足となるが、心の病や難病に対しては、医療での支援に加え、福祉サービスや経済支援等もセットで考えていくことが重要であるため、現在、関係機関と協議を行っているところである。
- 中小企業等における健康づくりの取り組みについては、保健センターとの連携や役割分担が非常に大切だと思うが、そのあたりはどうなっているのか。
- 企業等における健康経営の取り組みについては昨年始めたばかりであるため、今後は保健センターと連携して取り組んでいければと考えている。なお、世界禁煙デーにおける啓発活動のほか、糖尿病重症化予防検討会など、連携して取り組んでいるものについては引き続き実施していきたい。
- 中核市となり、地域間・職域間の連携も取りやすくなったと思うが、例えば学校等との連携にはどういったものがあるか。
- 学校での取り組みとして、養護教諭が集まる総会において、子どもの受動喫煙防止という観点で、改正健康増進法及び大阪府受動喫煙防止条例について説明を行った。また、薬物乱用防止という観点で、教員や警察、保健センター、地域の薬物乱用防止指導員の方々とともに研修会を開催した。
- 例えば受動喫煙防止対策についても、より医療の知識が必要な部分は保健所、地域への啓発は保健センターというように役割分担していかないと、後々混乱するのではないか。昨年度中核市になったばかりなので難しいと思うが、ぜひそのあたりの整理を行った方が良いと思う。
- ご指摘のとおり、例えばアルコール問題の啓発は、初年度は保健所と保健センターが共同で実施し、次年度以降は保健センターで進めていく、ということも考えられる。また、禁煙などのポピュレーションアプローチは保健センターが実施している状況。なお、国の法律や大阪府の条例等については、保健所の方が情報の入手機会が多いため、保健センターや関係部局と情報共有を行っている。ただ、保健センターや出張所での保健師活動との連携が課題であり、今後協議を重ね、実効性の向上をめざしていきたい。
- 保健所の主な機能や健康課題についてまとめた今回の資料は大変素晴らしいと思うが、国の健康寿命延伸計画に対し、八尾市の実施する予防事業や健康診断事業が今後重要になってくると考えるため、健康寿命に関する具体的な数値を打ち出している方が、八尾市のめざす形を広くアピールできて良いのではないか。
- 健康寿命を目標とし、そのデータを示すことは大変分かりやすく、重要であると認識している。健康寿命には大きく2つの計算法があり、代表的なものは国民生活基礎調査に基づいて計算する方法であるが、こちらは大規模調査のため市町村ごとの数値が出ない。もう一つは介護保険の医療介護認定のデータを基に算出するもので、こちらは市町村ごとに算出が可能。今後はこのデータを基に、校区ごとに見える化を進めていくことで、健康で長生きするための材料にしていければと考えている。
- 環境衛生業務について、セアカゴケグモやスズメバチの駆除に保健所は関わってい

るのか。

- セアカゴケグモ等は、その施設の管理者が駆除にあたるのが基本となっている。ただ、駆除方法が分からない場合は、駆除指導という形で保健所からお伝えしているところ。
- 猫の多頭飼いは、届出がないと府条例違反になると聞く。多頭飼いについて住民間でトラブルがあった場合、羽曳野市では指導を行った事例があると聞いたのだが、八尾市ではどういった対応をするのか。
- 府条例では、10匹以上の飼育には府への届出が必要と規定されている。羽曳野市には府の動物愛護センターが設置されていることもあり、そういった事例をお聞きしたものと思われる。八尾市でも飼い方のアドバイスをはじめ、必要に応じて指導を行うなど、市民からの相談等に対応しているところである。
- 受動喫煙をはじめ、自殺や薬物等について子どもたちに啓発していくのであれば、当部会の委員として学校関係者に参画していただくのも良いかもしれない。中核市となり、これまでできなかったことも少しずつできるようになってきたと思うので、この機会にさまざまな立場の方に参画していただけると良いと思う。
- ご意見を参考に、今後検討していきたい。